（第三種郵便物認可）

地域と調和、人に活力

県建築文化賞 受賞作紹介

第三十四回県建築文化賞では周辺環境に調和した建築デザイン、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故で被災した人々の生活に潤いを与える作品など計六十二件が寄せられた。公共建築物が過半数を占める一方、民間の福祉・医療施設や復興を目指す災害公営住宅が多かった。審査委員長の長沢悟東洋大名誉教授は受賞作品の質の高さをたたえた。

長沢悟審査委員長総評

災害公営住宅の応募増

正誉のあぶくま更生園は知的障がいがある人々の生活実態について理解した上で、さまざまな空間要素を組み合わせ、短い工期の中で地場産材を巧みに用いて、明るく変化のある空間が実現されている。居室をユニット配置して施設的な雰囲気をなくすとともに、視覚的な一体感をもたせ、従来の障がい者施設のイメージを払拭（ふっしょく）した建築となっている。新たな可能性を示した作品として高く評価できる。

今回の応募作品はいずれも建築主、設計者、施工者の建築文化に対する理解と姿勢があって生み出されている。それぞれの地域の建築文化の発展に寄与するとともに、こうした積み重ねにより福島県全体の建築文化が形作られていくことが期待される。

現地審査では構想や計画、施工段階に携わった担当者から、当時を振り返りながら、思いを込めて説明していただいた。例年、審査を通じて建築文化賞の在り方、賞を通じて建築文化として何を継承していくかということを考えさせられる。建築に携わった人々や地域の人たちの思いと努力の上に建築が生まれ、技術が継承される。まちの景観が育ち、歴史が重なり、そうして建築文化が形成されていく。そのことが受賞作品を通じて多くの人々に共有されることを願っている。

審査委員

▽委員長＝長沢悟（東洋大名誉教授）▽委員＝柳沢陽子（建築家）北川圭子（北海道科学大名誉教授）笹部和生（建築家・日大一学部特任教授）手塚由比（建築家）早川博明（県立美術館長）矢森賢人（福島民報社代表取締役専務）

賞名	作品名	用途	建築主	設計者	施工者
正賞	あぶくま更生園（田村市）	指定障がい者支援施設	社会福祉法人県福祉事業協会	シーラカンスアンドアソシエイツ	鹿島建設東北支店
準賞	宮畑遺跡史跡公園　体験学習施設「じょいもん」（福島市）	博物館	福島市	大建設計・鈴木設計設計共同体、古市徹雄都市建築研究所	安藤組
優秀賞	国見町庁舎（国見町）	庁舎	国見町	福島県国見町庁舎建設実施設計共同企業体（ジェイアール東日本建築設計事務所、田畑建築設計事務所）	安藤・間　安藤組　佐久間工業特定建設工事共同企業体
	北会津こどもの村幼保園（会津若松市）	認定こども園	学校法人白梅	松鹿設計製作所	田中建設工業
	BLUE　MUG　COFFEE（いわき市）	事務所併用飲食店	いわきエアコン	ハコプラスデザイン	ハコプラスデザイン
特別部門賞	曙ブレーキ福島製造　桃苑寮（桑折町）	寄宿舎	曙ブレーキ工業	基本設計＝プランテック総合計画事務所実施設計＝亀岡工務店、設計室ＮＯＡＨ	亀岡工務店
	熊倉小体育館（喜多方市）	体育館	喜多方市	創ライフ研究室	樫内建設工業
	県買取型復興公営住宅関船団地（いわき市）	公営住宅	福島県	辺見美津男設計室	藤田建設工業
	飯舘村災害公営住宅飯野町団地（福島市）	公営住宅	飯舘村	邑建築事務所	英工務店
復興賞	KIK'B（郡山市）	物販店舗・飲食店	菊屋茶舗	阿部直人建築研究所	光建工業
	矢吹町営中町第一災害公営住宅（矢吹町）	公営住宅	矢吹町	スタジオ・クハラ・ヤギ	高田工業

居心地の良さ追求

◆優秀賞
BLUE　MUG　COFFEE
いわき

道路のカーブに面して雑木林を設け、印象的な建物と相まって街並みのアクセントとなっている。緑に面したテラス、木や石の素材を生かし手作り感にあふれた居心地良い内部空間が豊かな時間を地域に提供している。

▼遠藤真隆・いわきエアコン専務取締役
カフェと建設業を組み合わせた取り組みが評価されうれしい。多くの人が集う空間を生み出すのが理想。改善点を見つけ完成度を高めていく。

子どもの世界創造

◆優秀賞
北会津こどもの村幼保園
会津若松

周囲の風景を取り込み、遊びや交流の場となる円形の屋内広場を囲んで、色とりどりの屋根を持つ保育室を配置した。木を生かした内部空間と個々のスペースのアイデアで、文字通り子どもの世界を創り上げている。

▼橋本希義・学校法人白梅理事長
小さなお家が集まった村のような建物を イメージした。木を生かした環境で子どもの創造性を育みたい。食育などに活用するため施設開放を検討する。

独特の工法生かす

◆優秀賞
国見町庁舎

鉄骨と集成材のハイブリッド部材により、大スパンの空間と利用者に優しい木の空間が両立し、コンパクトな平面形だが豊かさが感じられる。外部の木のルーバーとボックス型バルコニーが新しい景観を生み出している。

▼太田久雄・国見町長
町産の杉や松をふんだんに使った。鉄骨に木材をかぶせる独特の工法を全国の公共施設で初めて採用した。防災拠点や賑いの場として利用してもらいたい。

縄文土器モチーフ

◆準賞
宮畑遺跡史跡公園体験学習施設「じょいもん」
福島

鉄骨造体トラスの屋根架構が印象的で、難度の高い設計に施工者も応え、密度の濃い建築が実現されている。

▼木幡浩・福島市長
縄文時代の暮らしを見学、体験できる施設で多くの市民に活用いただいている。今後も風格ある県都ふくしまを目指して歴史・文化と調和したまちづくりを進める。

再生の起点へ期待

◆復興賞
矢吹町営中町第一災害公営住宅

通り庭やリビングアクセスにより交流を生出す配置、木材を活用した多様な平面の組み合わせなど挑戦的な姿勢で新たな公営住宅の可能性を示した。旧奥州街道沿いの街並み再生の起点となることが期待される。

▼野崎吉郎・矢吹町長
安全・安心で快適な生活環境を備え、震災復興の証しだ。復興から創生へ向かう町にとって大きな喜びであり、さらに夢と希望の持てる町づくりを進めたい。

駅前活性化に貢献

◆復興賞
K-K、B
郡山

被災した郡山駅前大通りを活性化するため、一、二階はレンガタイル二階は木製ルーバー（連続した縦板）のファサード（外観）による連続的な街並みを創り出した。にぎわいや活動を生み出すスペースを確保している。

▼菊屋茶舗・高橋ひとみ社長
関係者と何度も話し合って造った。イベントスペースではミニコンサートやフリーマーケットなどが開かれ、たくさんの人が集まる場になりうれしく思う。

住民と交流可能に

◆復興賞
飯舘村災害公営住宅
飯野町団地
福島

戸建てと長屋形式の住戸が広場を囲む配置で、集会施設が居住者同士、周辺住民との交流を可能にしている。集会施設が子どもの居場所として木造で居心地良く計画されていることも特筆できる。

▼曹野典雄・飯舘村長
原発事故で避難した子どもが仮設校舎に通いやすいよう福島市に整備した。設計、施工の工夫が光る。集会所を入居者や住民の交流の場として活用してほしい。

超短工期3階建て

◆特別部門賞
県買取型復興公営住宅関船団地
いわき

コスト・工期が厳しい買取復興公営住宅の設計・建設で県産材を使用し、ウッドALC工法による県内初の三階建て公営住宅を四カ月という超短工期で完成させ、公営住宅計画の新たな可能性を示している。

▼内藤勇雄・藤田建設工業社長
木のぬくもりや安らぎ、工期を最優先に進めた。外壁に地元産材を活用し、景観にも配慮した。今後も建築文化に貢献できるよう努力したい。

飯豊杉ふんだんに

◆特別部門賞
熊倉小体育館
喜多方

地場産の八寸角の杉材二百本を製材として用いた。木造ならではの架構の繰り返しにより、内外ともリズム感のある空間と形態が、工期・工費などの厳しい条件の下で地域の製材所・大工の力を集めて実現されている。

▼山口信也・喜多方市長
本庁舎に続き受賞できとてもうれしい。市の木・飯豊杉をふんだんに使用した。ぬくもりある木造の体育館で子どもたちが元気で健やかに成長してほしい。

女性のための空間

◆特別部門賞
曙ブレーキ福島製造
桃苑寮
桑折

設計・施工チームで検討が重ねられた。間仕切りをすれば講義室となるホール、吹き抜け階段ホールなど明るく女性が学びながら働きともに過ごす場として、女性による計画・一体感のある生活空間が生み出されている。

▼信元久隆・曙ブレーキ工業社長
働きながら学ぶ勤労学生の支援を目的に建てられた寄宿舎で新築に伴い名誉ある賞を受け心から感謝する。社会に貢献する人材の育成に生かしたい。

あぶくま更生園（田村）正賞

川内から避難、再建 明るい空間創出

県建築文化賞

11点入賞 22日表彰式

環境に調和し、景観上優れた建築物をたたえる第三十四回県建築文化賞の正賞に田村市の指定障がい者支援施設「あぶくま更生園」が選ばれた。地元の田村杉を巧みに使い、明るく変化のある空間を創り出したことなどが高く評価された。準賞一点、優秀賞三点、特別部門賞三点、復興賞三点も決まった。福島民報社、県建築士会、県の主催。表彰式は来年一月二十二日に福島市の杉妻会館で行われる。

（5面に関連記事）

あぶくま更生園は東京電力福島第一原発事故で川内村から避難を余儀なくされ県内外を転々とした後、二〇一五（平成二十七）年四月に田村市船引町で再建にこぎ着けた。

避難生活で疲れた知的障がい者の心身を癒やせるよう、木の温かみを生かした木造平屋とした。個室から共有空間までを段階的につなぎ、木造の骨組みがそのまま内部に表れた空間構成で開放感を演出した。外観は周辺の山並みに合わせて切り妻屋根の集落のような景観とし、折り重なった屋根の隙間から内部に光が入る。内装や家具には田村杉を多用した。

社会福祉法人県福祉事業協会が建築主となり、名古屋市のシーラカンスアンドアソシエイツが設計、仙台市の鹿島建設東北支店が施工した。木造平屋で建築面積は三〇七七・二五平方㍍。住所は田村市船引町船引字四斗蒔田六九。

県建築文化賞は東日本大震災と原発事故のため二年間中断し、二〇一三年度に再開。今回は二〇〇九年四月一日から二〇一六年三月三十一日までに完成し、一年以上使用されている建築物を対象とした。

公共建築物三十五件、民間建築物二十七件の計六十二件の応募があった。用途別では福祉・医療施設が十四件で最も多く、次いで庁舎・事務所十件、学校教育施設九件、文化・スポーツ施設九件、共同住宅八件、工場、複合施設、建築物群は各三件、商業施設二件、古い建築物の修復が一件。地域別では中通り三十一件、会津十七件、浜通り十四件だった。

審査委員長の長沢悟東洋大名誉教授ら審査

地元の田村杉をふんだんに使い、木のぬくもりを生かしたあぶくま更生園。施設的なイメージを払拭したと高く評価された（上は内観、下は外観）

受賞作品 ※順不同

- ◆正賞
  - ▶あぶくま更生園（田村市）
- ◆準賞
  - ▶宮畑遺跡史跡公園 体験学習施設「じょいもん」（福島市）
- ◆優秀賞
  - ▶国見町庁舎（国見町）
  - ▶北会津こどもの村幼保園（会津若松市）
  - ▶BLUE MUG COFFEE（いわき市）
- ◆特別部門賞
  - ▶曙ブレーキ福島製造 桃苑寮（桑折町）
  - ▶熊倉小体育館（喜多方市）
  - ▶県買取型復興公営住宅関船団地（いわき市）
- ◆復興賞
  - ▶飯舘村災害公営住宅飯野町団地（福島市）
  - ▶KIK'B（郡山市）
  - ▶矢吹町営中町第一災害公営住宅（矢吹町）

県産水

政府、基本戦

政府は二十六日、水素基本戦略を関係閣僚会議で決定した。二〇二〇年東京五輪・パラリンピックでの県産水素活用を明記したほか、県内を新エネルギーの先進地とする「福島新エネ社会構想」をモデルに位置付け、水素製造拡大を目指す。

安倍晋三首相は会議で、「福島のクリーン